

【21】

テーマ「人間関係」

タイトル「新型コロナウイルス感染症から見えてくる自身の偏見や差別と向き合おう」

【学習のポイント】

- 新型コロナウイルス感染症は現段階では未知のウイルスで、誰もが不安な気持ちになることを知る。
- 新型コロナウイルス感染症から感じた自身の「偏見」や「差別」について考えることを通して、大人でも不安になれば思考力や判断力が弱まり、誰かを責めたり排除したりする気持ちを抱いてしまうことを理解する。
- 人権尊重の社会づくりの担い手として、そして保護者として、新型コロナウイルス感染症から見えてくる人間の差別心の具体やその理由を共有すること、さらに今後各自にできることを話し合うことを通して、この問題に対して正しく理解し行動する意欲を高める。

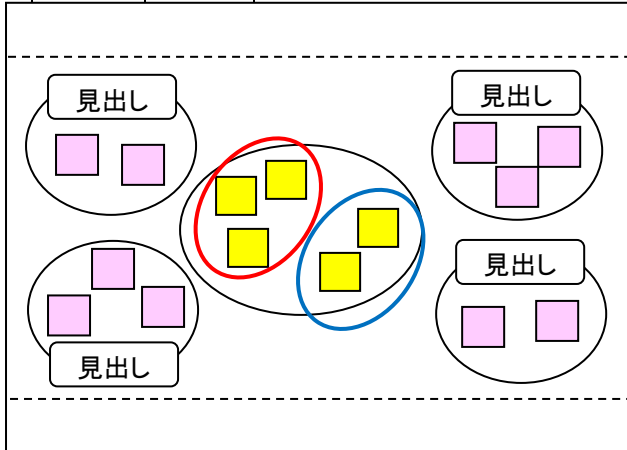
【キーワード】

- 共に学び、自他を大切にすること
- 今は正しく理解して、正しく恐れる

【すすめ方（80分）】

流れ	分	主な活動	主な発問	留意点
導入	5	1 本研修会のねらいや進め方の確認 ・話合いのルールについて確認する。	■ 本研修会のねらいや進め方について説明する。 ・真面目な雑談 ・「参加」「尊重」「守秘」を確認	◆ 事前にグループ編成を行っておくと良い。 ◆ グループの人数は、1グループ4～5人程度。
展開1	10 (2) (7) (1)	2 アイスブレイク ・ステイホーム中のおうちエピソード(良かった or 悪かったこと)	■ 新型コロナウイルス感染症対策でステイホームをされたと思いますが、おうちで起こった良かったことや悪かったこと(しくじり)を1つだけ自己紹介を兼ねて紹介しましょう。 ・個人作業です。付せんに書きましょう。(2分) ・模造紙の中央の円内に付せんを貼り付けて紹介しましょう。(7分) ・「良かったこと(赤ペン)」「悪かったこと(青ペン)」に分けて、マルで囲みましょう。(1分)	◆ 準備物：付せん(黄色)、黒ペン、赤ペン、青ペン、模造紙 ◆ 良かったことでも悪かったことでもどちらでも良いことをおさえておく。結果、良いことばかりに偏ったら、ファシリテーターが悪かったことを紹介する。

展開2	25 (5) (20)	<p>3 新型コロナウイルス感染症から見てくる偏見や差別について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が発生してから今までを振り返り、自身の差別心について考え、話し合いを通して様々な事例について理解する。 	<p>■新型コロナウイルス感染症が発生してから今までを振り返って、皆さんがしてしまった、または思ってしまった御自身の偏見や差別の経験について考えてみましょう。(今はしていないものも可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人作業です。皆さんが感じた御自身の偏見や差別の具体を付せんに書きましょう。(5分)。 ・グループで情報共有しましょう。また、同じものや類似のものはグループ化しておきましょう。情報共有できたら、グループ化したものをペンで囲んで、見出しを付けましょう。(20分) 	<p>◆準備物：付せん(桃色)</p> <p>◆参加者の偏見や差別の具体が出ない場合は、ファシリテーターが具体例を紹介する。</p> <p>◆グループでの情報共有が早く終わりそうであれば、全体を見ながらスキップしても良い。</p>
-----	---	--	---	---

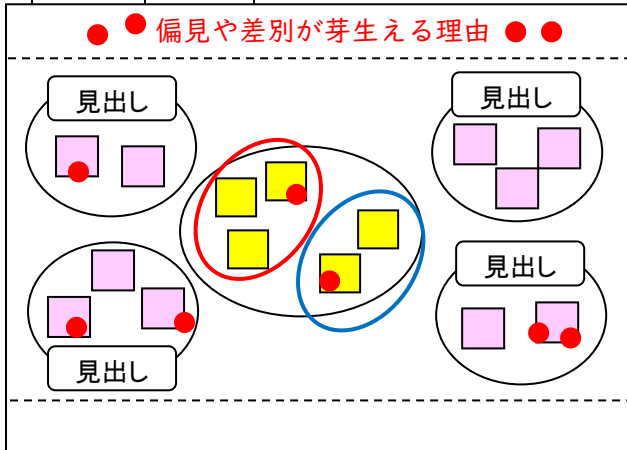


<偏見や差別の具体例>

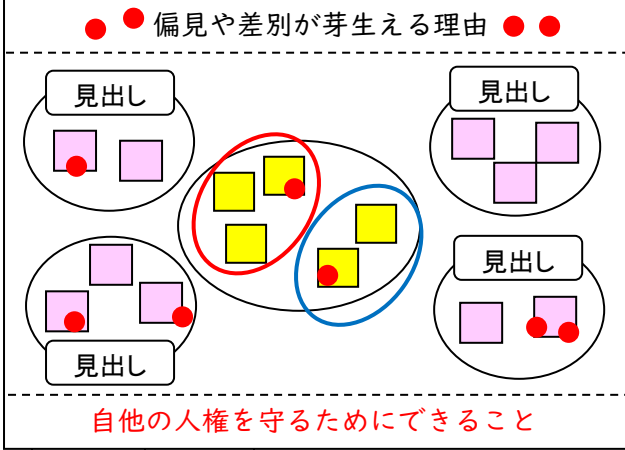
- 不安になり県内感染者の素性を調べた。
- 当初、国内で感染拡大したことで外国人観光客を悪く思った。
- 急遽、帰国した日本人に対して「帰ってくるな」と思った。
- 感染症対策のルールを守ることができない人を批判した。
- ステイホーム時に来県する県外の人に対して「来るな」と思った。
- 持続化給付金の対象に風俗業が含まれないのは仕方ないと思った。
- 都市部から観光に訪れる「コロナ疎開」に嫌悪感を抱いた。

展開3	35 (10) (10)	<p>4 どうして偏見や差別などの気持ちは現れるのかを考える。</p>	<p>■新型コロナウイルス感染症の影響で、日頃人権尊重を意識している皆さんでも偏見や差別が芽生えてしまうことが共有できました。では、どうしてそのような気持ちは現れるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由を話し合っ、模造紙の上部分の折り返しを広げて、そのスペースに出てきた意見を書きましょう。(10分) 	<p>◆記録者を決めて、出てきた意見をどんどん記録するように促す。</p>
-----	--	--	--	---------------------------------------

<偏見や差別が芽生える理由例>未知のウイルス、薬やワクチンがない➡不安や怖れをもつ、情報があふれていて正しい判断が難しい、誰かを排除することで安心したいなど



<p>5 ギャラリーウォーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの模造紙の様子や意見を見て回りましょう。 ・「なるほど」と思う付せんや意見には、シールを貼りましょう。(10分) 	<p>◆準備物：ドットシール(1人4枚)</p>
--	--------------------------

	(10)	6 大人として、保護者として何ができるかを考える。	<p>■各グループで偏見や差別が芽生える理由を話し合い、ギャラリーウォークで共有もしました。最後は皆さんに「大人として」「保護者として」新型コロナウイルス感染症による偏見や差別、いじめを防ぎ、自他の人権を守るために何ができるかを考えましょう。</p> <p>・何ができるかを話し合っ、模造紙の下部の折り返しを広げて、そのスペースに出てきた意見を書きましょう。(10分)</p>	<p>◆記録者を決めて、出てきた意見をどんどん記録するように促す。</p>
			<p><できることの例> 正しい情報を得る(伝える)、不安を安心にかえる(人とつながり、新たにできた喜びを味わう)、差別的な言動に同調しない、人権について学び続ける、多様な価値観に触れながら生活する など</p>	
	(5)	7 全体共有(発表)する。	<p>■出てきた意見をグループ毎で発表しましょう。(5分)</p>	<p>◆グループの代表者に発表してもらいが、スタイルは一任する。</p>
まとめ (3)	5 (3)	8 ファシリテーターのまとめ	<p>■最後に今日の研修のまとめをします。</p>	<p>◆参考資料「新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について」を配布し説明する。</p>
9 アンケートの記入をする。				
<p>・今日は皆さんが御自身の偏見や差別の経験を紹介してくださいました。言いにくいことを自己開示してくださったことに感謝します。</p> <p>・皆さんのお話の内容や新型コロナウイルス感染症の様々な現状から、「人は他者を含め自分とは違う異質なものを疎外・排除する気持ちが、ある意味自然に醸成してしまう」ことを再認識しました。</p> <p>・お配りした資料は、岡山県教育庁が発行している中学校・高等学校生徒用のものですが、「偏見や差別による感染症拡大のメカニズム」や裏面の記述を見ていただければ、今日の学習と重なるところも多々あるのではないのでしょうか。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症も治療薬やワクチンが実用化され、医療現場で使用されるようになれば、不安も解消され、「コロナ差別」なんて言葉も耳にしなくなることでしょう。でも、今は新型コロナウイルス感染症による偏見や差別、いじめを防ぎ、自他の人権を守るための取組が必要です。</p> <p>・「正しい知識を得る、そして伝える」、「多様な価値観に触れながら自身を振り返る」、「不安な時は信用できる誰かと話をする」、「保護者の立場であれば、子どもの声に耳を傾け、時には子どもに自分の意見も聞いてもらう」、そんな生活を心がけたいですね。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症と付き合いながらの生活は大人も子どもも初めての経験です。だからこそ、自分も他者も大切にしたい生き方をしていきたいですね。</p>				

新型コロナウイルス感染症に関連する人権への配慮について

新型コロナウイルス感染症の対策や治療にあたる医療関係者、社会機能が止まらないように働く労働者、感染者や回復者、これらの方々の家族等の尊厳を傷付ける行為について多くの報道がなされています。このような偏見や差別につながる行為は断じて許されないものです。また、これらの人たちが通学する学校、勤務する職場等に対する誹謗・中傷もあってはなりません。

これまで、ハンセン病問題やHIV感染者への偏見・差別、さらには福島第一原子力発電所事故により避難した児童生徒へのいじめなど、正しい知識や理解の不足、根拠のない思い込み等により、人々の人権が侵害されてしまう事象が繰り返されてきました。

新型コロナウイルス感染症の問題に直面している今こそ、自分の人権も他の人々の人権も大切に作る行動について一人一人が考え、実践しましょう。

偏見や差別による感染症拡大のメカニズム

偏見や差別が広がると、自分自身の感染を疑った人がそれを隠すようになり、結果として感染症の拡大につながる。

新型
コロナウイルス
感染症

未知のウイルスで、ワクチンも開発されていないため、不安な気持ちになる。さらにうわさ話やSNSの情報等によって不安が大きくなる。

偏見
差別

不安

不安が怖れとなり思考力や判断力が弱まる。ウイルスを遠ざけたいという気持ちから、特定の人たちに「危険」というレッテルを貼り、責めたり排除したりすることで安心感を得ようとする。

問題解決のために、わたしたちに何ができるでしょうか。

自他の人権を守る行動が感染症拡大防止にもつながります。

➤ 不安な気持ちに向き合しましょう。

新型コロナウイルス感染症は、他の感染症に比べて分からないことが多く、誰もが不安な気持ちになります。さらに、メディア等から得た情報によって、その不安が具体性をもって大きくなったり、恐怖に変化したりすることもあります。

まずは、一息ついて今の状況を整理し、自分の気持ちや態度を振り返ってみましょう。情報収集する時間を短くし、自分がリラックスできると思うものに触れ、不安をコントロールしましょう。また、信頼できる大人に自分の気持ちを聴いてもらうことも大切です。

➤ 偏見や差別につながる行為は絶対にやめましょう。

新型コロナウイルス感染症は、無症状の人もいることから、どこで、誰から感染したか分からない場合も多く、誰でもかかる可能性があります。感染した本人を責めることはできません。

特定の人たちを科学的根拠もなく責めたり排除したりすることは偏見や差別につながります。絶対にやめましょう。

うわさや根拠のない思い込みでなく、公的機関等の信頼できる情報をもとに行動することが重要です。また、感染者やその家族、医療関係者等の状況や思いを自分のこととして考えることも大切です。

➤ インターネット上の情報に注意して、情報を発信する行為に責任を持ちましょう。

インターネット上には不確かな情報が数多くあります。そのような情報やうわさ話を信じてまわりの人に言いふらしたり、SNSで発信・拡散したりする行為は、プライバシーの侵害、誹謗・中傷等、人権を侵害することにつながりかねません。

情報を発信する自分の行為に責任を持ちましょう。

監修：中央大学人文科学研究所客員研究員 高橋聡美（「心と命のサポート事業」講師）

発行 岡山県教育庁人権教育課

〒700-8570 岡山市北区内山下2丁目4番6号

TEL 086-226-7612 FAX 086-224-2134

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/153/>